

花と植物癒し協会  
日本アロマ香水マイスター協会



2022年 スペシャルレッスン

# Maria Callas

歌に生き、愛に生きた伝説のディーバ  
マリア・カラス 光と影

レッスンテキスト



監修：代表 青木 恵  
作成：藤本真紀

## 歌に生き 愛に生きた伝説のディーバ マリア・カラス

その美貌と圧倒的な歌唱力、表現力で聴衆を虜にし、20世紀最高のソプラノ歌手と呼ばれたディーバ、マリア・カラス。

1947年イタリアでデビューを飾ってから、1965年ロンドンのコヴェントガーデン王立歌劇場の舞台までの17年間はマリア・カラスの全盛期でした。

情熱的で正直な性格の彼女の一挙手一投足は常にマスコミの称賛と非難を浴びました。その中で成功への階段を昇り詰め、オペラを万人に愛される芸術として世界に広めました。



### 母の英才教育と恩師との出会い

1923年8月に、ギリシャからニューヨークに移民として上陸した夫婦、ジョージとエヴァンゲリア。妻、エヴァンゲリアは妊娠中でした。

1923年12月4日、街路に雪が積もる日、ニューヨークの病院で産声をあげたのが、後のマリア・カラスとなる、マリア・セシリア・カラスでした。

夫婦の間には、長女と嫡子の長男がいましたが、その息子をチフスで亡くしていました。エヴァンゲリアは、代わりになる息子を望んでいたため、生まれた娘を4日間見ようとすらしなかったのです。

母親の愛情は長女のジャッキーに集中し、幼いころのマリアは顧みられることはありませんでした。ただ、野心的だった母は、娘たちを芸能の道で成功させることを夢見て、姉にはピアノを、マリアには声楽を学ばせました。マリアが7歳のときに彼女の音楽的才能に気づいた母親は、マリアを歌手として成功させる＝金儲けさせるために何もかもを犠牲にするつもりで情熱を注ぎ始めました。

娘二人をどうしても音楽家にしたかった母は、合意の上で夫と離婚しギリシャへ帰ることにしました。ギリシャで、姉はピアノ、マリアは歌に専念しました。

イルダコは、スペインの大歌手であり、有名な教師でもありました。戦争のためにたまたまギリシャに滞在しており、戦争が終わるまで仕方なくアテネ音楽学校の教師を務めることにしたのです。イルダコが、若いマリアの歌を聞いたことが、運命的な出会いとなりました。「まだ統制の採れていない音の滝のようでした。私は目を閉じて、この荒削りの金属を完璧な形に鑄造していく作業が、どんなに楽しいだろうと想像したのです。」とイルダコは述懐しています。この時二人に深い絆が生まれました。

そうして、1938年にアテネ王立歌劇場で「カヴァレリア・ルスティカーナ」のサントウツ

ツァを歌いプロデビューをしました。

1945年、マリア・カラスはさらなるキャリアアップのため、イルダコの反対を押し切り、父のいるニューヨークに渡りました。ニューヨークは国際的な活躍の場にふさわしいに違いないと思ったからです。

### メネギーニとの出会い、結婚

約2年のアメリカ生活ののちマリア・カラスは、ヨーロッパに渡りました。

1947年の夜、野外の円形劇場ヴェローナで、マリア・カラスはヴェネチアの街の歌姫ジョコンダの美しい衣装をまとい、聴衆の前に現れました。ヴェローナは、イタリア・オペラのすべてといわれます。音楽と歌と夜とが渾然一体となり、華やかな演奏に2万5千の聴衆は歓呼する…ヴェローナで歌うためには強靱な肺とのとどと体格を持っていなければなりません。



しかし、マリア・カラスは、たちまち生涯を通じて不動のものとなる彼女の役を作り上げました。愛のために死ぬ歌手ジョコンダを見事に演じたのです。

その直後、ヴェローナの実業家ジョヴァンニ・バッティスタ・メネギーニと出会います。この出会いが、彼女の人生を変え、歌手活動の決定的転換点にもなりました。

### スカラ座の女王へ

\*ヴェローナに着いて間もなく、マリア・カラスはもう一人の人物と出会っていました。彼もまた、それ以降の彼女の人生で決定的な役割を果たすこととなります。

それは、マエストロ\*のセラフィン。野外劇場でマリアの声を聴いたとき、その声のすばらしさにすぐに気づき、その声と気質を鍛え上げ、全世界の劇場のライトを浴びせてやりたいと考えました。

マリアは、その庇護と指導によって伝説的な歌姫へと成長しました。イルダコの後を受けて、マリア・カラスの歌手人生に大きな影響を及ぼした指導者です。セラフィンという人は、わずか32歳でスカラ座の音楽監督となり、46歳からの10年間はニューヨークのメトロポリタン歌



劇場音楽監督、56歳からは再びイタリアに戻ってローマ歌劇場の音楽監督となった人です。

(\*マエストロ：音楽家、芸術家に対する敬称)

## ギリシャの海運王アリストテレス・オナシスとの出会いと別れ

マリアよりも17歳年上のアリストテレス・オナシスは、タバコ商から造船帝国を築き上げたギリシャ人実業家。世界最大の個人所有の海運艦隊を集め、世界で最も裕福で最も有名な男性の1人でした。学歴はないものの、6ヶ国語をあやつり教養も高かった彼は、カリスマ性のあるいわゆるプレイボーイでした。



マリア・カラスが37歳の時、オナシスが所有する豪華客船の旅に招待されます。体調不良やスキャンダルで疲れ果てていたマリアはこれに応じました。長期間の船旅で二人の関係は親密になりました。間もなくそれはマスコミの知るところとなり、当代きってのプリマドンナと一代で成り上がった世界一の大富豪との恋、双方に夫、妻子があったことから、マスメディアの格好のネタとなり世間の注目を集めました。マリアは、夫を捨てた不埒な女として非難を受けました。しかし、オナシスを心から愛したマリアは、大きな代償を払ってメネギーニと離婚し、オナシスも妻と離婚しました。

## 最期の舞台

その後マリア・カラスは、若い才能を育てるために「ジュリアード音楽院 マスタークラス」を開催し、後進の指導に情熱を傾けます。その頃、20年前にオペラで何度か共演していたテノール歌手ジュゼッペ・ディ・ステファノと再会します。当時は、ことあるごとに張り合う仲でした。失意の中にいたマリアを励ます気持ちもあり、二



人でもう一度ひと花咲かせようと大きなツアーを提案しました。そうして、1973年、マリア・カラス最後のワールドツアーが行われ、各国で賞賛されました。マリア・カラスの生涯最後のステージは、日本の札幌でした。

ツアーの間、パートナーだったステファノとマリアは、深い仲になっていましたが、彼には妻がいてそれは成就させてはいけない恋でした。50歳のマリアにとってこれが最後の恋でした。

## マリア・カラスの代表作

### ●椿姫（ジュゼッペ・ヴェルディ作）



ヴェルディは、19 世紀を代表するイタリアの作曲家であり、主にオペラを制作しました。

イタリア・オペラに変革をもたらし、現代に至る最も重要な人物と評されます。

パリ社交界の花形ヴィオレッタと田舎から出てきた青年紳士アルフレードとの恋。苦難を乗り越えようやく真実の愛が成就するときヴィオレッタはすでに肺病に冒されており喜びながら息を引き取りました。

### ●ノルマ（ベッリーニ作）

シチリア島のカターニアに生まれたベッリーニは、34 年の短い生涯に 10 作のオペラの中でも、「ノルマ」の人気は群を抜いています。

紀元前 50 年ころ、ローマ占領下のガリア地方を舞台に巫女長ノルマとローマ総督ポリオーネの禁断の愛、若い巫女アダルジーザとの三角関係を軸に物語は展開していきます。

（「ノルマ」は女性歌手にとって最も負担のかかる演目ともされており、このような難しい作品にマリア・カラスは、新たな命を吹き込んでいった）

### ●トスカ（プッチーニ）

プッチーニ、イタリア・オペラ最大級の人気を誇る作曲家。

薄幸なオペラ歌手のトスカ、恋人で反体制画家のカヴァラドッシ、ローマを暗黒支配する警視総監のスカルピアの愛憎が渦巻き、激情の限りを表現します。主要登場人物が 3 人とも非業の死を遂げるといふ、凄惨な内容でありながら、古今において人気作です。マリア・カラスの当たり役とされています。

参考、引用文献：真実のマリア・カラス レンツォ・アッレーグリ

マリア・カラス ひとりの女の生涯 ピエール・ジャン・レミ

マリア・カラス 聖なる怪物 ステリオス・ガラトプロース

画像：Wikimedia Commons 他